



KOMATSU

建築人

12

2013

大阪ホンマもん

丹下健三の香川県庁舎をきっかけに次々と始まった香川県内の建築プロジェクトの中で、異彩を放つのが、大高正人（一九二三～二〇一〇年）の手がけた坂出人工土地である。今回はこの建物を紹介したい。

戦災を免れ戦後を迎えた坂出には、基幹産業の製塩業のために塩田近くに建てられた高密度の集落が老朽化してスラム化し、市街地にそのまま取り残されていた。当初、大高に設計依頼があった内容は、商店街の裏に広がるこの不良住宅地に、住宅改良事業法による国庫補助を受けてアパート数棟を建設する計画だけだったという。しかし、大高は、香川県県の環境アドバイザーで、大高も委員の一人として加わった日本建築学会都市計画委員会の人工土地部会代表だった浅田孝（一九二一～九〇年）の推薦を受け、香川県建築課の山本忠司や後に坂出市長となる建設課長の番正辰夫らと粘り強く調整を進めていく。そして、建設省の強い後押しも受けて、商店街に防災建築法を適用することで、人工土地のモデル事業へと計画を発展させていく。また、そこには、敷地がもともと塩田という水害を受けやすい標高の低い場所だったため、住戸を地上から高い場所へ移設するのに人工土地という方法が都合だという利点もあった。

こうして、最終的には、敷地面積約一万二千㎡、人工土地面積約一万㎡、地上六階、総住戸数一四二戸、その他に、市民ホール、商店街、集会所、駐車場を持つ巨大な群造形の建築が誕生する。

しかし、計画の実施は難航を極めた。商店街の理解を得るのに時間がかかり、土地収用に戸惑ったこともあって、大高とスタッフが計画に着手した一九六三年から、一九六六年の第一期工事着工に始まり、第四期の竣工する一九八六年に至るまで、実に二〇年以上に

及ぶ難産のプロジェクトとなったのである。それでも、大高には、次のような夢と目標があったからこそ、やり遂げることができたのだろう。

「私たちはこの計画に数々の空間構成の夢をもちこみ、乏しい予算の中で、将来の都市デザインの方向を暗示したいと考えた。単に一個の名建築をめざすのみではなく、現代都市の問題を試作し、その将来に対して問題を提起したいと考えたのである。」（大高正人「実

記憶の建築 松隈 洋

坂出人工土地 1968～76年
都市を形づくる建築を求めて



店舗もある人工土地上の風景



人工土地の下に広がる駐車場

る大地の化身を造り出したいというのが、（中略）人工土地は土木でも建築でもない構築物であり、道路と建築という古い相関関係を破って新しい都市機能と都市空間を造る触媒になる見込がある。どうにもならない土地所有の不合理さを一挙に近代化する可能性も秘めている。」（大高正人「坂出市の人工土地による再開発の現況」『建築文化』一九六八年三月号）

実際の設計では、どのような建築的方法が

と建築的スケール、公共的な空間と私的な空間を結びつけるために、階段やスロープ、広場の芝生や灌木の庭、自然光の取り入れ口ともなる円筒などの要素を活用すること。そして、経済的な理由から現場打ちのコンクリートで建物全体をつくらざるを得ない条件の下で、その形態と表情に工夫を施すことによって、陰影に富んだ、彫の深い造形を目指すこと。

こうして、この建築には、どこか戦前の同潤会アパートが持っていたような重厚なたたずまいが実現する。それは、具体的には、曲線を用いた階段室の庇やハツリを多用したコンクリート造形の細部のデザインによって生み出された。もちろん、こうした造形操作は、そのままコストにも響いてくる。だからこそ、運搬費を節約するためにベニヤの普通型枠を使用し、四回以上も繰り返し使う工夫を施すなど、コストダウンの努力も同時に行われたのである。

坂出人工土地が、今なお濃密で人間的な雰囲気醸し出しているのも、大高らが、建築を「人間化」しようという目標を掲げ、精力を注いで設計したからなのだと思う。第一期の完成から四十五年、時代の変化は著しい。それでも、住民たちは愛着を持って住み続けている。また、幸いなことに、その建築的価値を認める地元の坂出市も、プロジェクト・チームを発足させて、再生活用の方法を検討し始めたという。この建築がより良い形で生き続けることは、そのまま、大高が求めた都市を形づくる建築の可能性を再び共有することにつながるのだと思う。その行方を注意深く見守りたい。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士（工学）。一九七七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

先月号に引き続き、都市における緑化を紹介します。今回は、街の真ん中の建物の屋上に農園を作る試みです。地面に負けない本格的な収穫を目指すことで、「新たな都市の土壌」が生まれました。そのような姿勢は「これからの農」の可能性を感じさせます。企画・設計を担当された鹿島建設関西支店の荒井康昭さんにご紹介いただきます。

新たな都市の土壌(その2):京都八百一本館における都市農場

荒井 康昭

1964年生まれ。1990年鹿島建設 建築設計本部入社。1995年阪神・淡路大震災において東京から社内ボランティアとして三宮駅そごう神戸店の復旧計画を担当。箕面マーケットパーク ヴィソラ計画コンペ最優秀案。2010年奈良学園大和郡山キャンパスで日本建築学会賞 教育賞。2013年 京都八百一本館で京都デザイン賞 大賞受賞 他。現在 鹿島建設 関西支店 建築設計部 設計長。「社会に資する建築」を目指し、独自の手法であるVP化：Value Progressing（価値の進化）により、建築を一つの点から面的な存在価値に昇華させることを常としている。

月の光に照らされた六角農場。ここにたずみ、田中社長と共に、私たちが実った作物を見つめていると、ふと隣にいたお客様がつぶやいた：「ここが都会の屋上であることをすっかり忘れていました。自分が畑の一部になったよう。この農場は一体： どうしてでしょうか？」

京都八百一本館とは

二〇一三年四月にオープンした京都八百一本館は、建築主・株式会社セントラルフルーツの企業理念であり、田中勝三社長の積年の想いである「農業・流通・食」のあるべき姿を具現化した〈館〉です。同社は、屋号「京都八百一」で全国三十五ヶ所の百貨店に店舗を展開する全国屈指の青果物専門店であり、また、丹波、丹後、京北、北海道、四つの自社農場（八百一の郷）で農作物の生産を行う農業生産法人でもあります。

「農業・流通・食」、これはすなわち「生産者・販売者・消費者」を意味しています。その一つたりとも欠けては、農業は成り立ちません。京都八百一本館では、生産者・販売者・消費者が、四季折々の「農業」の営みに触れながら、互いの存在や役割を認識し合える環境形成を図り、農業の大切さ、食べる楽しさ、豊かさが感じられる館を目指しています。

一、二階は、京都八百一を中心に厳選された野菜・果物・肉・魚の食材や惣菜、ベーカーリーやワインの販売、季節の野菜にこだわった飲食店舗を展開。三階の屋上は、土厚六〇cmの畑土により本物の農場と同じ耕作が可能で「六角農場」を構え、水耕栽培を行う温室、農場に面したレストランを備えています。六角農場で

農地と樹林地のバッファーとなる畔は、丹波農場の畔の表土をそのままはぎ取り移植し、ホトケノザやヘビイチゴ、オオイスノグリなどの里山でよく見る事のできる野草が芽を出しています。床には農業と厩を繋げる二十四節気のプレートを埋め込み、農業と食、生き物の関係をうかがい知ることができます。

都市部では受粉を担う昆虫や鳥の生息数が少ないため、受粉が困難となり結実できない植物も少なくありません。そこで、六角農場内に地場で生育されたニホンミツバチの巣箱・六角蜂場を設置しています。ニホンミツバチは古くから国内で飼育されていましたが、明治期に蜂蜜

耕作された野菜は、収穫から加工、調理、販売まで、ここで一貫して行われます。

食卓にもう一品、野菜の料理が並べば、日本の農業が助かる(想いの始まり)

田中社長が本館建設に動き出した背景には、①過当競争による農業の就労環境の悪化、②農村の後継者不足、③農業を志し挫折する若者たち、④野菜を知らない大人、子供たち、⑤便利さのみを追求する社会といったものがあり、それらは、農業の持つものづくりの精神、食の持つ価値の低下といった問題を引き起こしています。そんなある日、田中社長はある場面（図1）に出合います。長く農業・食に携わってきた中で、日本の農業に何か貢献したい…。野菜のこと、農業のことをもっと知って欲しい。農業を通じて、若者の活躍の場、子供たちの教育の場をつくりたい。そんな想いをもとに、二〇一〇年、八百一本館構想を立ち上げます。

本物の農場を屋上に移植(六角農場)

第五番目の農場となるこの屋上農場は、京都の中心に位置し、その地名から「六角農場」と名付けられ、本物の農場を移植することをテーマに整備されています。通常、屋上に農地を整備する場合、建物の耐荷重制限から保水性の高い軽量土壌（比重が〇・九程度）を用い、土厚は一五〇～二〇〇mm程度となります。そのため、標準的な農地と比較すると、耕起や畝づくりがやり難く、ゴボウや大根といった根菜類の作付けに制限が生じます。この六角農場では、ビル屋上にも関わらず、丹波農場で土作りされた畑土を導入し、土厚も六〇cm確保することで、自然の農地と同じ作付けの可能な農場を

の生産量がより多く、除去リスクの少ないセイヨウミツバチが輸入され、飼育数は減少しています。しかし、ニホンミツバチは、日本の気候や病気に強いこと、スズメバチやダニへの耐性を有するため薬剤を必要としないなどの性質があり、里山再生というコンセプトにも合致することから六角蜂場で飼育することとしました。

三方を山に囲む京都は、古来より水瓶と言われ、山からの湧き水のもと、地下水を豊富に蓄えています。六角農場では、農業に欠かすことのできない灌水を井戸から汲み上げており、農場横には循環型のせせらぎを設置し、そこにワサビを植えるなど、水の風景も創出しています。また、施設前面の公開空地に井戸の井筒を設け、水のある京都のまち並み景観を復元しながら、災害時には地域に井戸水を提供することを可能としています。

伝承の館へ(都市への展開)

農業は農産物の生産に留まらず、人が暮らしていくために必要な様々な価値を与えてくれる産業です。その価値を都市の中で展開し高めていくには、単なる情報発信に留まらず、都市住民が実際に見たり触れたり味わったりする、つまり、五感で感じる仕組みが必要と考えます。

現在、六角農場では、この都市という立地環境を活かし、地域の小学校と連携し、市内の子供たちに食べる楽しさ、食べる豊かさを知ってもらう食育活動や、農業体験、環境教育など、地域に密着した取組みを行っています。京都市の施策のひとつに、自然の恵みが日々の生活の中に生かされる社会を目指す農力開発が取り上げられています。この施策を受け、

実現しています。（図2）

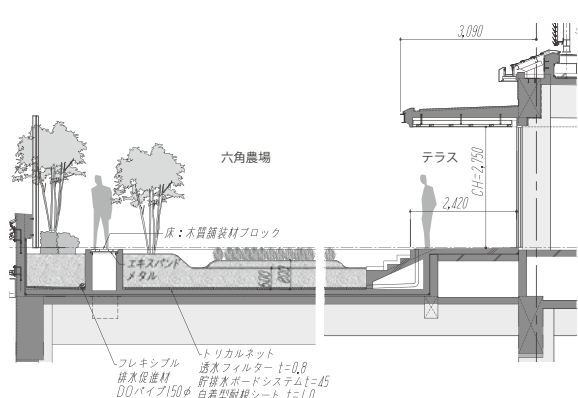


図2 屋上農場の断面構成

生産者と消費者を近づける

三階の六角農場に面したレストランでは、通常なかなか目にする事ができない耕作の様子や、四季の農作物を傍らに、ゆっくりと食事ができます。また、農場は三階の床レベルよりも仕上がり面を五〇cm下げること、小さな子供や椅子に座った視点からも、農場の様子を容易に見渡せます。（写真1）ここで、年間を通じて野菜の作付けを行っていきます。また、露地栽培だけでなく、冬期も安定して野菜が収穫できる温室（グラスハウス）を設置し、トマトや水菜、いちご等の水耕栽培を行っています。

農場の周囲は、日本の原風景である里山風景の再現をコンセプトとした植栽を行いました。ソヨゴ、クスギ、コナラ、シラカシなど京都の里山に多く生育する樹木を自然なかたちで植樹し、遊歩道には、京都の北山で伐採された再利用木チップを圧縮した床材を採用しています。

産官連携を図りながら、農業生産法人が都市において農業に従事することが、「生産者・販売者・消費者」それぞれを繋ぎ、日本の農業が抱える様々な問題に向かい合うきっかけとなることを期待しています。そして、小さな一つの点で始まった〈館〉が、これからの日本の農業、社会に求められる資質へと変換され、やがて面へと広がる〈伝承の館〉として役割を担っていくことを願っています。

月の光に照らされた六角農場。本稿冒頭のお客様に、私たちは答えます。

「ここには農業の本質があります。人々が脈々と行ってきた農業、食の営みを、大切に伝えたいという想いがあるのです。説明板はありません。ここで感じたそのままを、誰かに大切に伝えていく。それがこの六角農場が存在し続ける意味だと思っています。」（鹿島プロジェクト開発担当 三輪）

その姿を見ながら、田中社長は傍らでそっと微笑み、頷いていらっしやいました。セントラルフルーツは一〇〇年続く企業を目指しています。この都市農場を持つ伝承の館が、地域に根ざしていくことで、本当の意味での企業の進化が始まります。

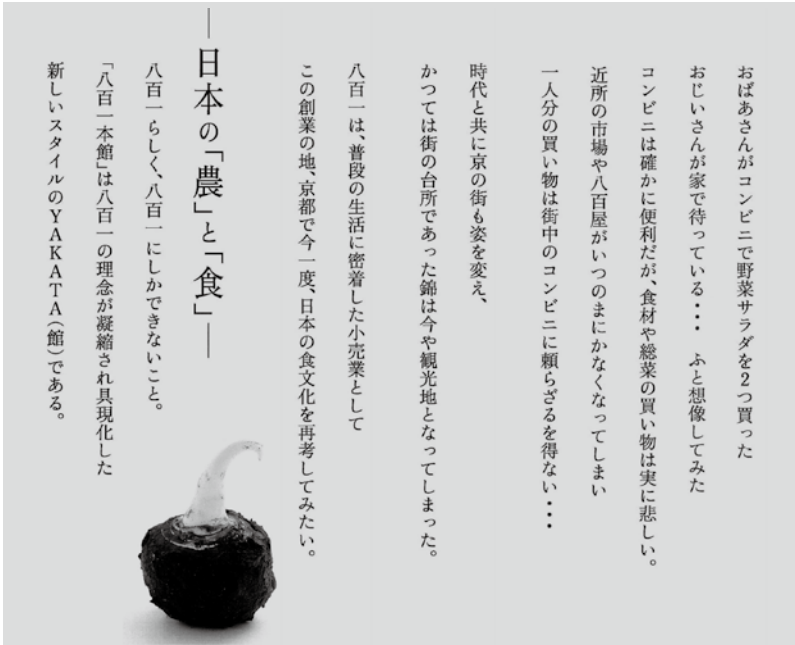


図1 京都八百一本館のパンフレットより抜粋



写真1 全国第5番目の自社農場を3階屋上に移植（六角農場）



建設地は、南河内に位置し 30 年位前に開発された閑静な住宅地である。敷地は広く道路との高低差が 1m 程度あり、要望から駐車スペースとして前庭をオープンにし、建物に中庭を設け防犯も含め中庭から玄関に入るアプローチとした。

玄関はフラットな土間とし、家族室と個室を分離する計画とした。家族室・食事室・台所は一体的な空間とし屋根の勾配を利用し、広がりがあり明るい空間とした。

2 階は子供室とご主人の書斎スペースがあり、8 月には PL の花火を鑑賞することのできるデッキを設けている。

所在地：大阪府南河内郡
用途：専用住宅
竣工：2013.8
構造規模：木造 2 階建
敷地面積：231.72㎡
建築面積：94.34㎡
延床面積：132.48㎡
写真：絹巻 豊



この家は母と娘姉妹の女性3人の為の住まいです。3人のプライベートな生活を大切にしながら、家族が寄り添える住まいをつくりたいと考えました。

170坪の敷地の中に、豊かな庭の緑を残しつつ、食堂や居間など家族として過ごす大きな平屋の空間を置き、その中に独立した2階建ての3つの個室棟を、距離と視線を考慮して配置しました。RC造の閉ざされた個室の中はメゾネットとし、1～2階へと繋がる2層の空間に3人3様の暮らしが確保されます。個室は2階で小さなスペースを共用しており、個室感覚を確保しながら、立体的にも平面的もループ状に途切れる事のないひと繋がり空間構成となっています。

所在地：大阪市鶴見区
用途：専用住宅
竣工：2013.10
構造規模：RC造 2 階建
敷地面積：555.26㎡
建築面積：269.92㎡
延床面積：327.84㎡
写真：富田英次

INFORMATION

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

会員の皆様へ

「応急危険度判定士」資格取得のお願い

本会では、大地震発生時に市民の安全を確保するため、全会員の皆様を対象として「被災建築物応急危険度判定士」の資格取得キャンペーンを実施しております。この機会に判定士養成講習会を受講され、本会判定士ネットワークへの登録をお願いいたします。

被災建築物の応急危険度判定養成講習会

12/18・2/19 CPD4 単位

日程 ①12月18日(水) ②2月19日(水)
時間 13:30～17:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各150名(申込先着順)
受講資格 大阪府内在住または在勤する一級建築士、二級建築士、木造建築士及び建築基準適合判定資格者。
受講料 無料
テキスト代 1,500円(税込み)
申込先・問合せ 一般財団法人大阪建築防災センター耐震部
Tel.06-6942-0190

本会における既存建築物耐震診断等評価業務のご案内

～平成26年1月初めより耐震評価業務を開始～

「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正による、広域緊急交通路の沿道建築物や不特定多数が使用する5,000㎡以上の大規模建築物などの耐震診断等の義務化等に伴い、本会は大阪府から耐震評価機関の指定を受け、有識者や実務者の委員で構成される「建築物耐震評価委員会」を設置しました。平成26年1月初めより耐震評価業務を開始しますので、ご利用していただきますようご案内します。
(業務内容)
耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画書の審査、評価
(対象建築物)
既存建築物で、公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。
(会員特典)
申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の割引があります。
詳細につきましては12月中旬頃に本会ホームページに掲載します。

平成25年度 建築士定期講習

3/26 CPD6単位

建築士事務所に所属の一級・二級・木造建築士で、平成22年度に建築士定期講習を受講

された方が対象です。なお、平成22年度以前に建築士試験に合格し、本講習を未受講の方は、平成25年度中に必ず受講してください。
■日時・会場
3/26(水) 9:30～17:30
大阪国際会議場、定員300名
会場コード5C-54
■申込締切日
2/28(金) 申込書必着
※大阪での申込受付は簡易書留での郵送のみです。
※定員に達し次第、受付を終了します。
■受講料 12,900円(消費税含)
■申込書配布・受付場所
大阪府建築士会事務局
大阪府建築士事務所協会事務局

平成25年度 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算講習会》

12/17 CPD6単位

大阪府マニュアルに基づいて限界耐力計算による診断技術を得得していただく講習会です。
日程 12月17日(火)
時間 11:00～16:30
会場 大阪府建築健保会館内
定員 各150名(申込先着順)
受講料 会員6,000円 会員外8,000円
テキスト代 3,500円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

建築士法にもとづく「臨時建築技術講習会」耐震関係の最新情報と確認申請Q&A

12/5 CPD3単位

今回の建築技術講習会は建築技術者の方を対象に、担当行政から耐震関係法令の最新情報を解説して頂きます。また、当会賛助会員出版の『目からウロコの建築確認のポイントQ&A』をテキストとして、スムーズな建築確認申請のポイントを分かり易く解説します。
日時 12月5日(木) 13:25～16:55
会場 大阪府建築健保会館6階
内容 ・耐震改修促進法等一部改正
・目からウロコの建築確認のポイントQ&A
定員 150名(申込先着順)
受講料 建築士会会員4,000円、
一般5,000円(テキスト代含)

実践建築スクール《大阪府知事指定講習》木造住宅耐震診断・耐震改修コース

12/11～1/29 CPD10単位

建物の耐震化の重要性が注目されている中で、現場ではどのように診断が進められているのか、見落としてはいけないのはどこか、また補強はどのように考えればいいのかなど、木造住宅の耐震診断・補強設計・施工監理に関する実務レベルでの実践研修を全5日間で開催いたします。
日時 2013年12月11日、18日
2014年1月15日、22日、29日
全日程とも(水) 18:30～20:30
会場 大阪府建築健保会館5階

内容 ・耐震診断、耐震改修のための基本事項
・耐震診断の実践
・耐震診断結果のまとめ方
・診断結果の考え方
・耐震改修工事の進め方
定員 50名(申込先着順)
受講料 建築士会会員10,000円、
一般15,000円
テキスト代 7,000円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

実践建築スクール《大阪府知事指定講習》木造住宅設計・監理コース

2/7～2/21 CPD18単位

本講習会は、これから木造住宅の設計・監理に取組もうとする建築士や、木造住宅の設計・監理技術のスキルアップを目指す建築士などをはじめ、建築士以外の建築技術者も対象にして全3日間で開催します。ぜひ木造住宅の設計・監理のスキルを身につけられ、日常業務にお役立て下さい。
日時 2014年2月7日、14日、21日の3日間
全日程とも(金) 9:30～16:50
会場 大阪府建築健保会館5階
内容 木造の基礎知識、基本設計、実施設計、地盤・基礎設計、軸組設計、耐風・耐震設計、確認申請、工事監理
定員 50名(申込先着順)
受講料 建築士会会員15,000円、
一般19,000円
テキスト代 3,000円(ひとりで学べる木造の壁量設計演習帳)

平成26年在阪建築15団体合同新年交礼会

1/6

日時 1月6日(月)15:00～16:00
会場 リーガロイヤルホテル 2階山楽の間
大阪市北区中之島5-3-68
会費 3,000円
申込締切日 12月3日(火)
会費を添えて12月3日(火)までに本会事務局までお申送ください。12月10日(火)以降のキャンセルについては、会費のご負担をお願い致します。
内容 部門別最優秀賞(各1点以内)、部門別優秀賞(各2点以内)、特別賞
問合せ 大阪府住宅まちづくり部居住企画課住宅施策推進グループ大阪の住まい活性化フォーラム事務局担当 上木、野村
Tel.06-6941-0351(内3032)

第9回海外研修旅行「ミャンマー・ヴェトナム～魅惑の発展都市を巡る～」

3/5～12 CPD申請

今、沸騰するアジアの国々を見て感じて学ぶ海外研修を企画しました。詳細は事務局に資料請求をお願いします。
日程 2014年3月5日～12日
行先 ミャンマー・ヴェトナム
申込締切 12月27日(金)
コーディネーター 森田茂夫(国際分科会代表)

事務局年末年始休暇のお知らせ

12月28日(土)から1月5日(日)まで休ませていただきます。

本会の催し参加申込方法

本会ホームページのWEB申込サイトからお申し込み下さい。FAX・郵送の場合は、事務局にお問い合わせ下さい。なお、建築士定期講習会は郵送のみの受付となっています。
問合せ・申込
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17 高田屋大手前ビル5階
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

Administration

行政からのお知らせ

大阪の住まいカアップ 第2回リフォーム・リノベーションコンクール

大阪府内でのリフォーム・リノベーションの事例を募り、優秀な事例を選定し、府民へホームページ等で情報発信することにより、中古住宅をリフォーム・リノベーションして、住みたい街に住むことの魅力を広げていくことを目的としています。
対象 大阪府内で平成23年1月から平成25年12月20日(金)までの間に、リフォーム・リノベーション工事が完了した住宅(他、条件有)
応募部門 ①戸建部門 ②町家・長屋部門
③マンション部門

応募書類入手方法
ホームページ(http://osaka-sumai-refo.com/)から所定様式をダウンロード。
応募期間 11月5日(火)～12月20日(金)
(当日消印有効)
賞 部門別最優秀賞(各1点以内)、部門別優秀賞(各2点以内)、特別賞
問合せ 大阪府住宅まちづくり部居住企画課住宅施策推進グループ大阪の住まい活性化フォーラム事務局担当 上木、野村
Tel.06-6941-0351(内3032)

平成25年度大阪府住宅省エネルギー施工技術講習会(第二弾)開催

住宅の断熱設計から断熱施工までのポイントをテキスト・DVD・実物大カットモデルを活用し分かりやすく解説します。
講習会日程 下記日程のうち、いずれか1日
講習時間 10:00～17:00
講習会費用 1,000円(受講料)+別途修了証発行手数料
会場① 花博記念公園ハウジングガーデンセンターハウス2階
大阪市鶴見区焼野1-南2
鶴見緑地駅より徒歩5分【専用駐車場(敷地北側の第2駐車場(無料))あり】
会場①日程 12/5(木)、12/12(木)、12/19(木)、

このINFORMATIONページの詳細は本会ホームページにも同時掲載しており、ホームページから直接予約することができます。
下記の本会ホームページへアクセスしてください。(建築情報委員会)

【大阪府建築士会ホームページ】 http://www.aba-osakafu.or.jp/

1/9(木)、1/16(木)
会場①定員 35名
会場② 大阪木材会館6階大会議室
大阪市西区新町3-6-9
西長堀駅より徒歩2分【専用駐車場なし(周辺の有料駐車場をご利用ください)】
会場②日程 1/19(日)、1/26(日)、2/2(日)
会場②定員 80名
主催・問合せ 大阪住宅センター
Tel.06-6253-0073
小角(こすみ)・寺尾
※詳細はHP(http://www.shoene.org/)もしくは上記問合せ先へお問合せください。

Others

その他のお知らせ

第20回「建築構造用鋼材とその利用技術」講習会(大阪開催)

(建築士会CPD制度認定プログラム)

(一社)日本鉄鋼連盟では平成7年度から「建築構造用鋼材とその利用技術」講習会を開催しています。今回は、全国7地区にて建築構造用鋼材の利用技術、新工法等に関するテーマについて、実務的・実践的に解説します。
内容 ・基調講演
・鉄骨造に関わる最近の動向について
・「STKR柱補強設計・施工マニュアル」・「25度狭間先ロケット溶接適用マニュアル」解説
・長周期地震動に関する建築研究所の取組み
受講料 建築士会会員 2,000円
(テキスト・参考資料代、消費税含)
日時 12月20日(金) 13:30～17:30
会場 大阪大学中之島センター佐治敬三メモリアルホール(10階)
大阪市北区中之島4-3-53
定員 144名
申込締切 開催3日前(但し、定員達し次第締切)
申込受付窓口 株式会社エージェンシー内講習会受付事務局
Tel.03-6362-5999
電話受付時間 平日10:00～18:30
土日祝日休業
問合せ (一社)日本鉄鋼連盟経営政策本部市場開発グループ
Tel.03-3669-4815
http://www.jsif.or.jp

第17回木材活用コンクール ～農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞～

木のぬくもりとやすらぎを未来に届けるため、木材の良さを活かした作品を広いジャンルから募集し、木材の新しい用途での普及と木材の利用拡大に貢献する優秀な作品を表彰します。
主催 日本木材青壮年団体連合会
募集期間 平成26年1月1日～1月31日必着
募集部門

第1部門 木造及び混構造建築(構造物)
第2部門 木質空間(内装、外装等の木質化)
第3部門 一般住宅
第4部門 ランドスケープ・インスタレーション
第5部門 木製品(建材を含む)
応募条件
第1部門～第4部門
建設・設置地域は国内とし、平成23年以降で平成25年末までに完成したもの。
第5部門
平成25年末までにユーザーが購入または利用できるようになったもの。
表彰 最優秀賞 2作品
農林水産大臣賞、国土交通大臣賞
その他、優秀賞6作品、部門賞数点、特別賞などを加え、約20点を予定。
詳細はHPをご覧ください。
問合せ 日本木材青壮年団体連合会木材活用コンクール事務局 Tel.03-5620-4806
http://www.mokuseiren.jp

建築家丹下健三生誕百年を記念しての懐かしい幻燈上映会

与謝野晶子、丹下健三が、同じ町内で生まれていることは、余り知られていませんが、丹下健三の生誕百年を記念して、堺市甲斐町に建てた生誕地跡の記念柱、丹下健三設計の優れた現代建築を懐かしい幻燈で見ながら、建築の美しさを鑑賞し、保存・再生について話します。
日時 12月21日(土) 11:00～
会場 堺市立東図書館

(南海高野線北野田駅前アミナス北野田4階)
講師 明治建築研究会代表 柴田正己
問合せ 明治建築研究会
Tel.072-236-3357

団地再編COMPETITION 2013

賃貸集合住宅団地において、屋外空間、住棟、住戸からなる空間デザイン、専用・共用の考え方、管理・運営・経営の方法など、団地トータルのあり方に対する自由な提案と、それを実現する手法、その結果生まれる新しい風景イメージを募ります。
テーマ 郊外大規模賃貸住宅団地におけるストックを活用した持続的集住環境への再編
対象地 UR都市機構南花台団地
(大阪府河内長野市南花台3丁目)
応募資格 特に問いません
表彰 最優秀賞、河内長野市長賞、優秀賞(複数点)
応募登録 2013年12月25日(水)12:00まで
作品提出 2014年2月28日(金)17:00必着(郵送・宅配便のみ)
提出物 (1)概要説明書(A4用紙2枚以内)
(2)提案図面(A1パネル2枚)
(3)デジタルデータ(PDFデータ)
詳細はWebサイト参照
提出先 〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35 関西大学 先端科学技術推進機構団地再編プロジェクト
問合せ メールのみ(danchi-competition@outlook.jp)
Webサイト http://ksdp-competition.jimdo.com
主催・共催 関西大学KSDP団地再編プロジェクト・河内長野市

第17回木材活用コンクール ～農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞～

木のぬくもりとやすらぎを未来に届けるため、木材の良さを活かした作品を広いジャンルから募集し、木材の新しい用途での普及と木材の利用拡大に貢献する優秀な作品を表彰します。
主催 日本木材青壮年団体連合会
募集期間 平成26年1月1日～1月31日必着
募集部門

第1部門 木造及び混構造建築(構造物)
第2部門 木質空間(内装、外装等の木質化)
第3部門 一般住宅
第4部門 ランドスケープ・インスタレーション
第5部門 木製品(建材を含む)
応募条件
第1部門～第4部門
建設・設置地域は国内とし、平成23年以降で平成25年末までに完成したもの。
第5部門
平成25年末までにユーザーが購入または利用できるようになったもの。
表彰 最優秀賞 2作品
農林水産大臣賞、国土交通大臣賞
その他、優秀賞6作品、部門賞数点、特別賞などを加え、約20点を予定。
詳細はHPをご覧ください。
問合せ 日本木材青壮年団体連合会木材活用コンクール事務局 Tel.03-5620-4806
http://www.mokuseiren.jp

第2回大東建託 賃貸住宅コンベ課題 新たな「賃貸住宅」を考える 賃貸で住まう集合住宅を刷新せよ!

第2回を開催するに当たり、改めて「賃貸であること」の意味を問いかけます。今まで見られなかった新たな賃貸集合住宅の姿を描いてください。今回は敷地を設定しましたが、住人の数や住み方は自由です。ただし「賃貸であること」を表現してください。賃貸としての建築的な面から、制度的な面から、さまざまな切り口からこれまでの既成概念にとらわれない新たな賃貸集合住宅を期待します。
賞金 最優秀賞1点 300万円
優秀賞2点 各100万円
審査委員特別賞3点 各50万円
入選8点 各20万円
学生特別賞10点 各10万円
登録・作品提出締切 平成26年1月8日(水) 9:30～17:00(金曜20:00まで)
※入館は閉館30分前まで
観覧料 大人600円
(常設展示観覧料でご覧になれます)
休館日 火曜日 年末年始(12月28日～1月4日)
■学芸員による展示解説
日時 12月23日(月・祝)、1月13日(月・祝) 1月25日(土)、2月1日(土) 14:00～30分程度
講師 酒井一光(同館学芸員)
会場 大阪歴史博物館 8階特集展示室内
参加費 無料(ただし、入場には常設展示観覧券が必要)
参加方法 当日直接会場へお越し下さい
■朝日ビルディング群記録映像上映会&トークショー
日時 1月18日(土) 13:30～16:00
受付 13:00より
上映映像 「関西の歴史建築 vol.6 朝日ビル 伝統の継承と進化」(若林あかね作)
■トークショー 参加者 泉川渾洋、後藤俊明、若林あかね、酒井一光
会場 大阪歴史博物館 4階講堂
定員 250名(当日先着順)
参加費 500円
参加方法 当日直接会場へお越し下さい
問合せ 大阪歴史博物館
Tel.06-6946-5728

講習会「合成構造設計標準ならびに鉄骨鉄筋コンクリート構造計算標準」(大阪開催)

日本建築学会刊行の「合成構造設計標準」「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算標準・同解説」(改定)の主要内容を正確に把握していただくための講習会です。
日時 2月4日(火) 10:30～16:40
会場 大阪科学技術センター8階中ホール
大阪市西区靱本町1-8-4
定員 200名
参加費 大阪士会会員15,000円(テキスト代含)
テキスト 「合成構造設計標準」「鉄骨鉄筋コンクリート構造計算標準・同解説」(改定)
問合せ・申込 日本建築学会近畿支部
Tel.06-6443-0538
http://www.aij.or.jp/

図面でひも解くEXPO‘70「テーマ館」

日本万国博覧会(大阪万博)のテーマ「人類の進歩と調和」を具現化したテーマ館。本展では太陽の塔をはじめとした、200点以上の図面や写真を中心に展示し、テーマ館の全容をひも解く事で大阪万博の本質に迫ります。
主催 (一社)関西環境開発センター
期間 開催中～2月2日(日)
会場 万博記念公園自然文化園内 EXPO‘70パビリオン
入館料 大人400円 中学生以下無料
休館日 12月以降の水曜日・年末年始(12/25は開館)
問合せ EXPO‘70パビリオン
Tel.06-6877-4737
http://www.bmkkc.or.jp/expo70pavilion/

大阪歴史博物館

特集展示 近代建築の記憶

大阪では、明治・大正・昭和初期の各時代、都市の発展にあわせて優れた近代建築が数多く建てられました。近年、これらの近代建築が注目を浴びる一方、建て替えられるケースも増えています。その中には、古い建築の部材やデザインを新しく建てられる建築の一部に取り入れる試みも見られます。大阪歴史博物館では、建築を次世代に伝えるため、建築の忘れ形見ともいえるステインドグラスやテラコッタの装飾など、特徴的な一部分を収集しています。今回の展示では、これまで同館が収集した近代建築の一部分を中心に、関連する資料を交え、近代建築の魅力とその記憶の継承について紹介します。
会場 大阪歴史博物館8階特集展示室
日時 12月18日(水)～2月3日(月) 9:30～17:00(金曜20:00まで)
※入館は閉館30分前まで
観覧料 大人600円
(常設展示観覧料でご覧になれます)
休館日 火曜日 年末年始(12月28日～1月4日)
■学芸員による展示解説
日時 12月23日(月・祝)、1月13日(月・祝) 1月25日(土)、2月1日(土) 14:00～30分程度
講師 酒井一光(同館学芸員)
会場 大阪歴史博物館 8階特集展示室内
参加費 無料(ただし、入場には常設展示観覧券が必要)
参加方法 当日直接会場へお越し下さい
■朝日ビルディング群記録映像上映会&トークショー
日時 1月18日(土) 13:30～16:00
受付 13:00より
上映映像 「関西の歴史建築 vol.6 朝日ビル 伝統の継承と進化」(若林あかね作)
■トークショー 参加者 泉川渾洋、後藤俊明、若林あかね、酒井一光
会場 大阪歴史博物館 4階講堂
定員 250名(当日先着順)
参加費 500円
参加方法 当日直接会場へお越し下さい
問合せ 大阪歴史博物館
Tel.06-6946-5728

大阪では、明治・大正・昭和初期の各時代、都市の発展にあわせて優れた近代建築が数多く建てられました。近年、これらの近代建築が注目を浴びる一方、建て替えられるケースも増えています。その中には、古い建築の部材やデザインを新しく建てられる建築の一部に取り入れる試みも見られます。大阪歴史博物館では、建築を次世代に伝えるため、建築の忘れ形見ともいえるステインドグラスやテラコッタの装飾など、特徴的な一部分を収集しています。今回の展示では、これまで同館が収集した近代建築の一部分を中心に、関連する資料を交え、近代建築の魅力とその記憶の継承について紹介します。
会場 大阪歴史博物館8階特集展示室
日時 12月18日(水)～2月3日(月) 9:30～17:00(金曜20:00まで)
※入館は閉館30分前まで
観覧料 大人600円
(常設展示観覧料でご覧になれます)
休館日 火曜日 年末年始(12月28日～1月4日)
■学芸員による展示解説
日時 12月23日(月・祝)、1月13日(月・祝) 1月25日(土)、2月1日(土) 14:00～30分程度
講師 酒井一光(同館学芸員)
会場 大阪歴史博物館 8階特集展示室内
参加費 無料(ただし、入場には常設展示観覧券が必要)
参加方法 当日直接会場へお越し下さい
■朝日ビルディング群記録映像上映会&トークショー
日時 1月18日(土) 13:30～16:00
受付 13:00より
上映映像 「関西の歴史建築 vol.6 朝日ビル 伝統の継承と進化」(若林あかね作)
■トークショー 参加者 泉川渾洋、後藤俊明、若林あかね、酒井一光
会場 大阪歴史博物館 4階講堂
定員 250名(当日先着順)
参加費 500円
参加方法 当日直接会場へお越し下さい
問合せ 大阪歴史博物館
Tel.06-6946-5728

大阪市立東洋陶磁美術館
国際交流企画展「定窯・優雅なる白の世界―窯址発掘成果展」
定窯窯址の出土品66点を日本で初めて紹介します。
会期 開催中～3月23日(日)
時間 9:30～17:00(12/15～12/25は19:00まで。入館は閉館30分前まで)
休館日 月曜日、12/14、1/14、12/28～1/4(12/23、1/13は開館)
観覧料 800円
問合せ・会場 大阪市立東洋陶磁美術館
大阪市北区中之島1-1-26
Tel.06-6223-0055
http://www.moco.or.jp

ROFFINÉ



全身シャワーで包み込む！

上から降ってくる大型オーバーヘッドシャワーと
角度が変えられる3つのボディシャワー。
同時使用で全身包み込まれるようなシャワー感！



SK9880

パネルサーモシャワー混合栓

SAN-EI 1954 EST.

WEB カタログ・データダウンロードは  SAN-EI で検索

www.san-ei-web.co.jp 株式会社 三栄水栓製作所

理事会報告

文責 本会事務局

日時 十二月二十日(水)十六時～十七時三十分
場所 本会会議室
出席 理事三名、監事二名

(1)会計報告の承認

十月末日の当期経常増減額は、収益九四、八八六、二六九円、費用七六、九八一、九五六円、増減一七、八八四、三二三円を報告して承認された。

昨年同期に比して、収益約一、八五〇万円、費用約一、五〇〇万円それぞれ下回っており、七月以降より諸活動の事業規模の縮小が拡がっている。

(2)収支報告(決算見込み)

現時点での決算見込みは△約一六〇万円の予測となることを報告した。
主要要因として、増収は施工会社からのC P D登録者の増員や新規の行政支援活動によるものがある。

減収は試験・専攻・定期・耐震等の参加者の大幅減少に起因している。

また、事務局職員の昇給停止、局長退職に伴う減給による人件費支出減、連合会からの構成員増加助成金が含まれている。

(3)建築物耐震評価委員会規定等

耐震評価機関の設立準備の一環として、同委員会設置規程、耐震評価手数料規程、委員報酬規程について、それぞれ承認された。

(4)役員候補者選考委員会の細則付加
標記委員会の詳細規程が十月度理事会で承認されたことを受けて、同委員会設置のこ
と及び運用上の条項を細則に規定すること
が承認された。

(5)今井俊夫理事より、日本建築士会連合
会会長表彰を契機に本会にご寄附いただいた。

建築相談

建築士の見たトラブル事例(十六)
四号建築物

編・文 橋本頼幸

今月の「建築相談」コーナーは、相談員の杉山英俊様に原稿をいただきました。先月の「基準法は最低ルール」と関連した「仕様規定」に関する話題です。漫然と設計をしていると落とし穴にはまる可能性があります。気をつけたいところです。

建築基準法第六条一項四号に該当する建物(小規模な木造建築等)は、構造計算の義務がなく、壁量計算と金物検討、及び基礎の形状が規定されているにすぎず、基礎の配筋は、住宅性能保証制度(俗に言う十年保証)などで示された仕様に基づき設計する場合がほとんどです。また、四号建築物はこれらの構造上の検討結果を申請する事も不要で、基本的には設計者の判断とされています。そのため、仕様規定は多少の余裕を持つて定められていると考えられる事もあるようですが、そうでもなさそうです。

私が相談を受けた物件は、ごく一般的の木造二階建の四号建築物で、基礎は十年保証の仕様規定で設計されていました。普通なら何の問題もなかったのですが、この現場では設計G Lを決定する際、道路からのレベルを考慮していなかったようで、水勾配をつけて外部土間を打った段階で、土間と基礎天端が三〇cm未満となっていました。告示第三三七号には、建築物の基礎をべた基礎とする場合、「立上り部分の高さは地上部分で三〇cm以上(中略)……とする」とあり、また、施行令第三八条には、「構造計算によつて構造耐力上安全であることが確かめられた場合においては、適用しない。」とあります。

建築主は大変勉強熱心な方で、インターネッ

トで調べ、市役所や審査機関に相談に行き、この法令を確認した上で、「これは、基礎の高さは三〇cm以上とする」という条文に違反しており、基礎の構造計算をすべきだ」と主張され、私に相談されました。解決方法の選択は二つで、外部土間を打ち直して、基礎を三〇cm以上露出させるか、基礎の構造計算をかけるかです。施工業者は、土間排水の問題と工事費用の問題で、前者は好ましくないと判断しており、また、仕様規定以上で作っている基礎が弱いはずがないと考え、構造計算を選択しました。

ところが、いざ構造計算をしたところ、鉄筋が不足する箇所が二か所ありました。もちろん、たちまち危険であるというレベルではないのですが、一度弱い部分があるという結論が出た以上、「基礎を三〇cm以上露出させます」と言う処理で建築主が納得するはずありません。結果として、この物件は業者負担で補強をするということ、双方納得し、解決しました。

私を含め意匠系の建築士は、四号建築物の場合、壁量計算と金物検討、及び仕様規定による基礎の決定程度で設計する事が多いと思います。それ以外の構造は設計者判断となり、審査・検査の対象外です。例えば吹抜を計画する場合でも、性能表示や長期優良住宅を受けない限り水平剛性の検討も必要ありませんので、意匠を優先して、大きな吹抜空間に梁や火打も入れない物件があるのではないのでしょうか。

全ての建築物で構造計算が必要かどうかは、議論の余地はありますが、たとえ意匠系の建築士であっても、最低限の構造の知識は把握しておく必要があります。「法令に違反していない」「仕様規定に書いてある」と言うような、安易な考え方で設計するべきではないと、あらためて考えさせられた事例でした。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

WM・ヴォーリズ建築事務所が手掛けた、日本基督教団大阪教会は見応え十分だ。

大阪市西区に現存する教会は二階建て、構造は鉄骨及び煉瓦、コンクリート造による混構造。竣工は大正二年(一九一三年)。前年に原首相が暗殺され、各地で民主化運動が盛んに叫ばれている時代であった。

ロマネスク様式で建てられた外観は煉瓦積みで、積み方の工夫で巧みに紋様が施されており、通り行く人々の目を愉しませてくれる。また、二階の礼拝堂は、全体に緩やかな傾斜がついており、木製オリジナル家具の設えと共に、この礼拝堂が醸し出す優しさが心と身に伝わってくる。

阪神淡路大震災で半壊したが、その後、竹中工務店が改修工事に着手。オリジナルを良く理解した素晴らしい出来映えと言える。平成八年(一九九六年)には文化財登録制度発足と同時に、国の登録有形文化財に登録された。

煉瓦積みの壁が必要な暗闇をつくり出し、ステンドグラスから差し込む光は、闇夜を照らす神の祝福なのかも知れません。

建築人 12 2013

監修 公益社団法人大阪府建築士会

建築情報委員会

編集 建築情報委員会『建築人』編集部

編集人代表 米井 寛

編集人 荒木公樹 飯田英二

筑波幸一郎 中江 哲

橋本頼幸 牧野隆義

事務局 山本茂樹 母倉政美

印刷 中和印刷紙器株式会社



小松製作所 大阪工場 大阪テクニカルセンタ
鹿島建設 関西支店 建築設計部 外園洋一、大塚 哲、古川嘉久

大阪近郊に位置する、世界的な建機メーカー小松製作所の開発センタである。全世界の拠点となり、部門を超えて一体となる研究環境を創ることが求められ、「見える化」を推進する企業のアイデンティティを示す合理的で透明な空間の表現を試みた。

顧客の社風から、シンプルで合理的なオフィスを提案した。四周をアウトフレームとガラスに包まれた無柱のワンルーム空間と、コア周辺にはコミュニケーションを促進するミーティングスペース、吹抜、シースルーEVをコンパクトに配置し、一体となって縦方向のつながりを生み出す仕掛けを施した。

外装は、PCa造の構造体でアウトフレームを構成し、2段のアスロックルーバーを組み合わせて、日射遮蔽効果を高めている。フレーム内側のハイサッシから外気導入を行い、フロア中央部の吹抜を通じて最上部より排熱する自然換気を採用した。設備的にもきめ細かい制御を可能とするエコモジュールとし、大阪府からCASBEEのSランクの認証を得た。

工場正門より広がる緑と水景、そこに配されたグリッドの建築ボリュームという構成は、自然をリスペクトしながら建築と対比させ、工場の顔として街に開かれた一つの風景を創り出している。

先端のテクノロジーと端正なジオメトリを援用し、現代工場における研究所として新しいワークプレイスの提案と、良質な環境の構築をめざした。

撮影：島尾望 (SS東京) 第5回建築人賞奨励賞、グッドデザイン賞受賞作品

■プロフィール

外園洋一 (ほかぞの・よういち)
1983年 鹿島建設建築設計本部入社
現在 エンジニアリング本部施設計画グループリーダー
主な作品 山之内製薬固形CTM棟 (学会作品選集)、中外製薬藤枝工場固形剤棟

大塚 哲 (おおつか・さとし)
1992年 鹿島建設建築設計本部入社
現在 建築設計本部 建築設計統括グループ
主な作品 小松大阪工場GREEN PLAZA
古川嘉久 (ふるかわ・よしひさ)
2003年 鹿島建設建築設計本部入社
現在 Kajima Associates, Inc. Los Angeles Office
主な作品 凸版印刷堺事業所、集英社アネックスビル

■建物データ

外 構 株式会社ランドスケープデザイン
設 計 KAJIMA DESIGN
施 工 鹿島建設株式会社・前田建設工業株式会社・株式会社間組共同企業体
主 用 途 事務所
建築面積 2,761㎡
延床面積 18,157㎡
構造・階数 S造、SRC造 地上6階
最 高 高 30.95m
外部仕上 PCaコンクリートフレーム
竣 工 2011年2月

